

あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第58号

2022年3月15日発行

～野菜の分類(植物学)クイズ～

答は、本ページの下にあります

野菜の植物学的な分類は、連作障害を防ぐなど栽培計画に役立ちます。
同じ分類に属する野菜の組み合わせはどれでしょう。

(1)春菊



(2)玉ねぎ



(3)なばな



(4)レタス



(5)ニラ



(6)カブ



<答>

(1)春菊と(4)レタス：キク科、 (3)なばなと(6)カブ：アブラナ科、 (2)玉ねぎと(5)ニラ：ユリ科

1. 株式会社あびベジのご紹介

現在の「(株)あびベジ」の前身である農産物直売所が我孫子新田で開店したのが平成23年になります。水の館に移るのを機に平成28年に「(株)あびベジ」が設立されました。株主は我孫子市内の農家44名です。「あびこん」は我孫子市所有の水の館にテナントとして出店しています。

(株)あびベジ

①従業員が44名で社長の大炊さんは設立時から現在まで務めています、役員も全員農家で3名です。

②直売部門：

『あびこん』

- ・市内の農家が丹精を込めて作った安全安心で新鮮な農産物と地元農産物を使ったこだわりの加工品などを販売しています。出荷者は栽培情報を記した「生産履歴」を提出しており、定期的に無作為に抽出した農産物の残留農薬検査を行ない、安全性を確認しています。

『旬菜厨房 米舞亭』

- ・市の基幹作物である「米」を柱とし、「地元野菜の旬」を意識したメニューづくりをコンセプトに料理を提供しています。

③加工部門：水の館1階にある加工室では、季節の我孫子野菜を主体に使用したお惣菜や野菜スイーツを手作りし販売しています。

④学校給食：市内の小中学校で設けている「あびこ野菜の日」にあわせて定期的に季節の野菜の搬入をおこなっています。

⑤アビコン年間行事

1月：新年初売り

6月：創業祭

9月：新米フェア

12月：年末大感謝祭

適時開催：農業体験ツアー（農作物の播種・定植・収穫などの農作業を体験）

⑥これからの(株)あびベジ

- ・我孫子の農業を維持・継続、農地の保全をさせるためには、本市農業の特徴である「少量多品目生産」や都心から30km圏内の地理的利点を活かした事業展開が必要と考えております。
- ・食育や6次産業化の推進、特産品開発や市内外の消費者の農業体験等により観光にまで発展させるような新たな取り組みの可能性を模索することも求められており、更なる集客のためには、手賀沼親水広場と一体化した取り組みが必要と考えます。
- ・農業に熟知する市内農家で結成された弊社が主体的に農業拠点施設の管理運営を担うことで我孫子農業の振興を推進して行きたいと考えております。



2. 学校給食支援部会の活動状況

学校給食支援部会長 中村 公一

学校給食支援部会では、我孫子市内の公立小中学校に対して、毎週火曜日と金曜日に協議会会員の農家の生産物をお届けしています。定期的に納品する計画納品校数は2021年4月から並木小学校が加わって16校となり、スポット納品校は3校となっています。

ここ1年の活動実績は、4月頃の天候不順の影響があり、前半の納品量は予想を下回りました。天候回復後に納品量は回復したものの価格の低迷が続いています。詳しくは以下の表1に紹介しました。また、最近の状況としては、スポット納品校の我孫子中学校への納品量が2021年に急に多くなっています。スポット納品校は生徒数が多く、計画納品校に組み込むことが困難な事情があります。我孫子産野菜で注文数量確保が容易でないこと、現有冷蔵保管庫の容量、搬送用軽トラの積載量の限度の制限もあります。

学校給食では原材料費は重要です。設定価格に対しての価格希望は高い、安いはほぼ半々ですが、価格に上限設定をしている学校もあります。また、注文があっても納品物がないために受注できないケースもあるため、独自の生産物情報も年間20件程度発信して需給のミスマッチング解消に努めています。

過去の一時期、当部会では搬送要員が不足した時期がありましたが、現在は6名体制で順調に活動しています。しかし、搬送活動は早朝に実施する性格上、搬送要員には制約があり、高齢化も避けられません。今後、会社の定年延長がさらに進むと、要員確保のハードルがさらに上がることが予想されます。募集方法その他に工夫が必要です。地産地消推進の重要な担い手として学校給食搬送活動が円滑に続けられるよう皆様のご協力をよろしくお願いします。

表1. 2021年学校給食支援部会活動実績表

月	お届けした延学校数	搬送回数	野菜の数量[kg]	主な野菜名
1月	27	7	809.3	だいこん、キャベツ、こまつな
2月	29	9	867.5	キャベツ、トマト、ねぎ
3月	16	5	256.8	ねぎ、はくさい、にんじん
4月	20	5	297.9	キャベツ、たまねぎ、だいこん
5月	27	13	749.5	きゅうり、そらまめ、だいこん
6月	29	8	1001.6	たまねぎ、じゃがいも、トマト
7月	18	5	635.2	たまねぎ、なす、いんげん
8月	—	—	—	
9月	37	14	552.7	なす、ピーマン、ねぎ
10月	32	10	511.0	さといも、ねぎ、だいこん
11月	26	21	1263.0	さつまいも、キャベツ、にんじん
12月	26	10	847.5	にんじん、だいこん、はくさい
合計	287	107	7791.9	

3. 援農ボランティア活動報告

援農ボランティア部会 石田 善久

◆2022年2月期

(1) 1月に比べ援ボ希望数は増加、受入農家希望数は減少。

割当数は援ボ希望数の増加により増加。

(2) 午後の援ボ希望者が午前の約2倍、受入農家希望数は3倍となった。

援ボ希望達成率は午前43.6%、午後76.3%と午前の落ち込みが大きい。

受入希望達成率は午前80.0%、午後83.5%と平均している。

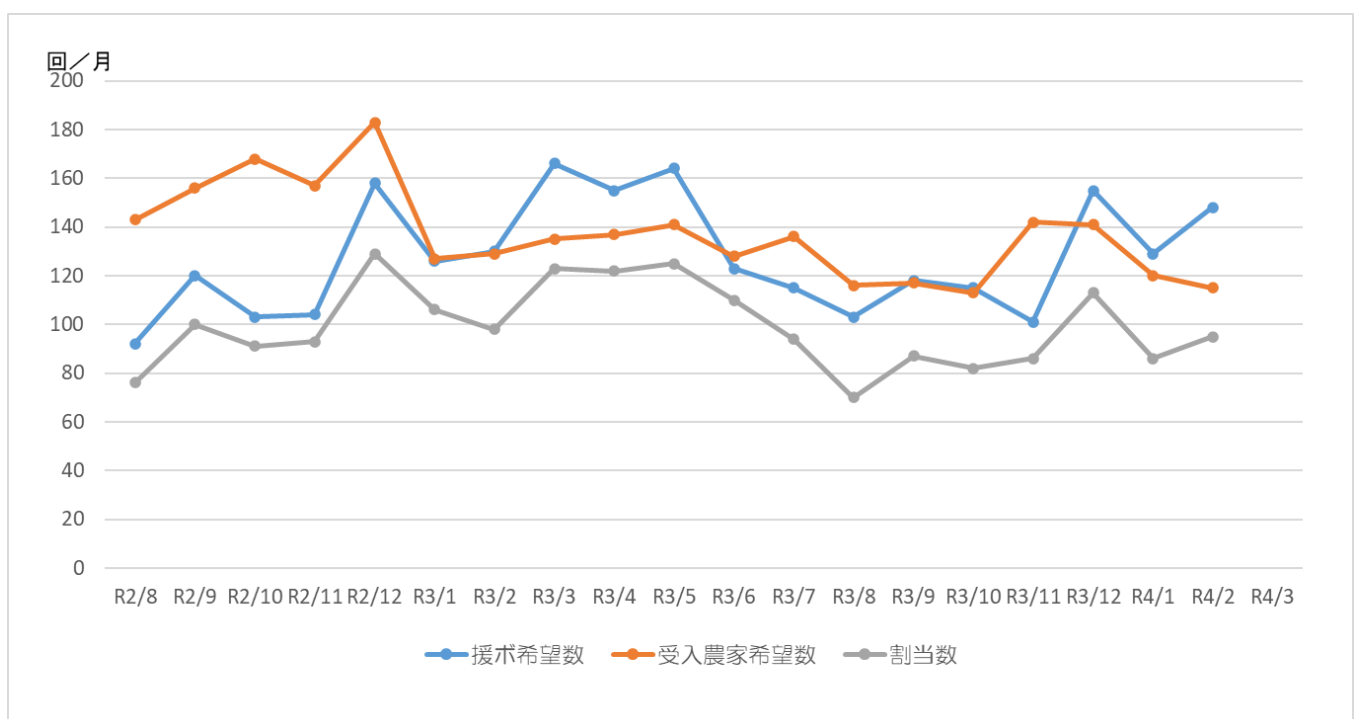
(3) 月曜日の受入農家希望数が午後3人のみと極端に少なく、水曜日午後が活動日全体の午後の受入農家希望数の半数と極端に多くなった。

(4) 受入農家希望数の季節変化(午前・午後の割合)に合わせ、援ボ希望数も可能な範囲でシフトしている。

部会としては割当率の向上には、援ボ希望者の受入れ先農家数を増加させる必要があると判断している。

入会時に主に交通手段を判断基準に、アンケートで援ボ個々人の活動可能な農家を選んでいただいているが、活動を実践する中で農家数が増加している会員もいることから、再度全員にアンケート調査することとした。

	R2/8	R2/9	R2/10	R2/11	R2/12	R3/1	R3/2	R3/3	R3/4	R3/5	R3/6	R3/7	R3/8	R3/9	R3/10	R3/11	R3/12	R4/1	R4/2	R4/3
援ボ希望数	92	120	103	104	158	126	130	166	155	164	123	115	103	118	115	101	155	129	148	
受入農家希望数	143	156	168	157	183	127	129	135	137	141	128	136	116	117	113	142	141	120	115	
割当数	76	100	91	93	129	106	98	123	122	125	110	94	70	87	82	86	113	86	95	
援ボ希望達成率(%)	83	83	88	89	82	84	75	74	79	76	89	82	68	74	71	85	73	67	64	
受入希望達成率(%)	53	64	54	59	71	84	75	91	89	89	86	69	60	74	73	61	80	72	83	



4. 受け入れ農家紹介

◆鈴木 順一さん（我孫子市岡発戸）

岡発戸1258-4 昭和22年10月27日生まれ

鈴木順一さんは印西市で生まれ育ち、実家は昔ながらの農家で田畑、ビニールハウスで農業を続けていました。中学・高校の6年間を卓球ですごしました。指導していた先生のお陰で県大会まで行き優勝したこともありました。18才で自動車の免許を取り、悪友と船橋に良く食事や映画（鶴田浩二・菅原文太など）をよく見に行きました。28才で結婚し我孫子市で農家を継ぐ生活をする事になりました。



ここ数年の主な農作物は、稲作を中心に・露地物の主な野菜はブロッコリー、枝豆、ネギ、ほうれん草などで、ビニールハウスはトマト・キュウリを主体にしている。

栽培している農作物にはあまり変化は無いが品種が2～3年で変わって行くので注意をしないといけないと思う。こだわりの農作物は特に無いが、昔は収穫量にこだわったが、今は味に気を付けるようになった、トマトでもいかに美味しく育てるか時には気持ち（成分調整）をトマトに入れている。

若い時には我孫子にもボーリング場が幾つかあったので、ボーリングをよくやった、後はゴルフかな100を切るのを目標にしながら、プレー後の仲間との飲み会が楽しみだった。最近亡くなった石原慎太郎や若いけど橋下徹は実行力があり、はっきり発言するので好きなタイプだ、歌手では北島三郎は若い時に苦労し努力で運を付けていた、又最近若手を育てている。歌もチカラ強い歌ばかりだ。

受入農家が少なくなりさみしい、ただ最近左肩が時々痛んだり、何でも無い所で躓いたりするがまだまだ現役で頑張っている。

◆そうま農園 相馬 英里さん（我孫子市北新田）

援農ボランティアさん、ありがとうございます。

援農ボランティアさんに来てもらい始めて、数か月。初の予定日は9月でした。けれど、予定日が近づくにつれて、台風も近づいてきました。会ったこともない方に、ぐずぐずと間際に中止の連絡をしたところ、「残念ですが、次の機会にぜひ…」と、すぐに丁寧な返事をいただきました。次の予定日もまた悪天候で、実際には10月になってからの作業でしたが、そこで、とても気が軽くなったのを覚えています。

私共、そうま農園は受け入れ農家ですが、私は、実は援農ボランティア出身です。しかも、第2期！初期からの参加です！と威張れるのはここまで。行く農家さんを間違えて、「今日は援農さん予定に入ってないよ」と言われてみたり、きゅうりの脇芽を欠いていたはずが、大きくしっかり伸びていたきゅうりの枝が上下に分かれて、ネットに引っ掛かりながらブラブラしてしまったり（脇芽ではなく本体を折ってしまったようです）。なのにお土産にいただく野菜が楽しみな、作業はイマイチどころかはた迷惑なボランティアでした。

いまさらですが、当時の受け入れ農家さん、ごめんなさい。といった経緯があり、期待値低めの受け入れでした。が、来る方、皆さん手際は良いし、作業に飽きてぶらぶらもしないし（私が飽きがち…）、短い期間ながら、



とても助かっています。特に、「2人でやる方が効率が良いのはわかっているけれど、必ず夫婦げんかになるので別々に作業しているんです～」と休憩時にぼろっと言ったら、「そんな時こそ、援農ボランティアですよ」と力強いお答えに目から鱗でした。そして、今まで夫婦でお互い相手にとっても気を使いながら、いや、けん制しながら張っていたトンネルの補強のロープを、ボランティアさんと、とても和やかに張ることができたのでした。

そうま農園には、手洗い等の設備がないので、今は男性中心に予定を組んでもらっていますが、「それでも大丈夫！」という女性ボランティアさん、いらっしゃったらぜひ、事務局までご一報ください。我孫子市のなかでもかなり広い空があります。大きな声では言えないですが、取る草もたくさんあります。さらに、見て見ぬふりをしているうちに景色と一体となり、放って置かれる支柱やマルチが常に発生しています。片付けなきゃというきっかけにも、ボランティアさんがなってくれています。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。



5. 第46回我孫子市消費生活展

広報部会長 若王子 範文

日時：令和4年2月5日（土）・6日（日）10時30分～16時30分

場所：あびこ市民プラザ

参加団体：7団体+2部署

主催：我孫子市消費生活展実行委員会、我孫子市

全体テーマ：持続可能な社会を目指して ～今、始めよう！SDGS～

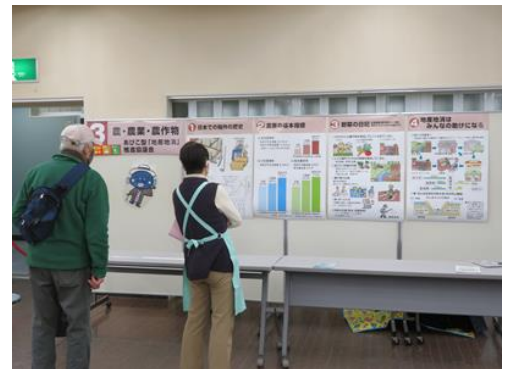
あびこ型「地産地消」推進協議会の団体テーマ：農・農業・農作物

パネル1：日本での稲作の歴史

2：農業の基本指標

3：野菜の日記

4：地産地消はみんなの助けになる



・新型コロナウイルスのオミクロンが蔓延する中、第46回我孫子市消費生活展が開催されました。ただコロナ対策は万全にし、規模を縮小し各団体の担当者も最小限度の人数とし開催されました。それでも一日目は100名、二日目は82人と大勢の方が来場し熱心に各パネルを見ていただき質問をしておりました。

発行：あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 齊藤徳剛

住所：270-1146 我孫子市高野山新田193（「水の館」2F）

（業務日 月・火・木）9：00～17：00

Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771

E-mail info@abiko-chisan.com HP <http://abiko-chisan.com/>

（協議会ホームページではカラーでご覧いただけます）

